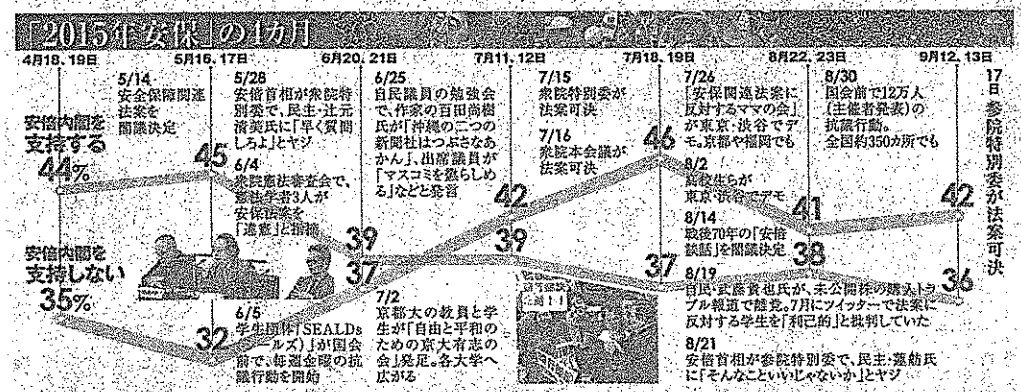
声上げ続けよう

街頭に出て政治の話を

この民主主義は崩れない

初めて街頭でマイクを握ったママがいた。高校生は制服姿でデモに加わった。安全保障関連法案をめぐり、多くの市民が声をあげた「2015年安保」の4カ月。人々は、政治のあり方を問い続けた。

「2015年安保」の1カ月



閣議決定からの4カ月

中川えりなさん

高田健さん

18日夕、国会前の抗議の人波のなかに上智大1年の中川えりなさん(19)がいた。学生団体「SEALDs」のデモに参加し始めたのは6月。初めて国会の傍聴もした。

選挙権はない。「若者は政治に関心がないと言われ続けてきたけど、デモという形で政治参加ができる」。この日、国会前からSNSに投稿した。これからも、「みんなでやらうよ」と呼びかけたい。

市民に反対の声が高まった転機は、6月4日の衆院憲法審査会だった。「私は憲法違反であると考えています」。憲法学者がそろって安保法案の違憲性を指摘した。その一人、小林節・慶応大名誉教授はいま、「政府が狙い撃ちしたことで、国民がなんとなく怪しいと思っていたことが、やっぱり怪しいと、火が付いた」と振り返る。小林氏はその6月、街頭で初めてマイクをにぎり、法案を批判し、この日も兵庫や福岡で講演に出かけた。「学者として教壇でかっこつけてしゃべってたけど、街頭に出て吹っ切れた」

4カ月の間、安倍首相の「早く質問しろよ」というヤジや、自民議員の「マスコミを懲らしめる」発言も批判された。「民主主義ってなんだ」などと訴える抗議の規模は膨らみ、8月30日の国会前には12万人（主催者発表）が集まった。実行委の高田健さん(70)は55年前の「60年安保」と比べて「幅が違う」と語る。「おじいちゃん、おばあちゃん、若者も子供もいる。目的の幅も広がった。政治に対する不信感から、街頭に出ている」

集会で人々が掲げる「アベ政治を許さない」というプラカードを埋め尽くした群衆の金子兜太さん(95)は「女性が勇気を持って反発の先頭に立ち、男性を目覚めさせた。この反発力は簡単には崩れない」。

一方で、法案の必要性を訴え続ける人たちもいた。会議員とみる百地章・日本大教授（憲法学）は「自衛隊やPKOも成立時から理解が得られていたわけではなかったし、安保法制の必要性も歴史が証明すると思う。政府は今後も、国民の理解を得る努力を続けるべきだ」と話した。

欺瞞の言葉 国会の劣化

作家・高村薫さん

たかむら・かおる　1953年、大阪市生まれ。商社勤務を経て、90年に作家デビュー。93年に「マークスの山」で直木賞を受賞。

「言葉の劣化」「政治家の劣化」「国会の劣化」。安全保障関連法案をめぐる国会の審議を振り返ると、そう感じます。

言葉の劣化で、表に出てきたのが情緒や気分です。「中国脅威論」が繰り返されますが、今や中国との関係は経済的に切れない。そもそも、隣国との関係を悪化させたのは誰なのか。一部の政治家たちでしょう。

新しい安保法制の狙いは米軍の世界戦略の一端を自衛隊が担うこと。そうした真実を隠すために、「後方支援」や「存立危機事態」など抽象的な言葉で無理が重ねられました。その結果、首相と防衛相の答弁がくい違うことがありましたが、平然と押し通されました。

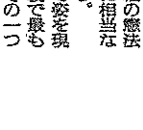
ヤジを飛ばす安倍首相らの言動は、後世まで記録されることが頭になかったとしか思えません。国会が軽視されているのです。

集団的自衛権の行使は日本の国のあり方を百八十度転換します。自衛隊が海外で銃弾を1発撃った瞬間、戦後70年、積み上げてきたものが崩れる。そんなことは絶対許してはならない。我々はこれからも関心を持ち続けなければならない。

（聞き手・中野晃）

デモは多様な民意の一つ

中北浩爾・一橋大教授



デモの動きがなぜこれほど大規模になったのか。有権者は2009年の総選挙で「政権交代のある民主主義」を手に入れた。ところが、民主党政権が失敗に終わって自民党の「一強多弱」になり、政権交代の可能性が当面失われた。

その間、自民党も変容した。民主党に対抗して党を存続させるために右派的理念を融解し、一枚岩化が進んだ。党内から自由や多様性という特徴が消え、政策もコアな支持層向けの傾向が強まった。

自民、民主の二大政党政治が機能不全に陥る中、世論の反対が強い集団的自衛権を安倍政権が推し進めると、有権者の間に不満が高まった。そこに3人の憲法学者の「違憲」発言で着火し、デモが一気に広がった。平和に関する争点であったことや度重なる問題発言なども追い風となった。

たとえ法案の成立を阻止できなくとも、反原発運動以来のデモという新たな「民主主義の回路」が広がり、経験者が数多く生まれた。この事実は、重要だ。

「デモは意味がない。選挙に行け」という言説があるが、歴史を振り返れば、大衆行動が為政者に影響を与えることは明らか。今回のデモは、安倍政権の憲法改正に向けた動きに相当な影響を及ぼすだろう。

民意は多様な形で姿を現す。選挙は民主主義で最も重要な手段だが、その一つでしかない。デモも同じ。多様な民意を反映できるよう、民主主義をバージョンアップできるかが問われている。

（聞き手・後藤孝太）

9/19 朝日